

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

株式会社レゾナック・ホールディングス（証券コード: 4004）

【見通し変更】

長期発行体格付	A
格付の見通し	安定的 → ポジティブ

【据置】

債券格付	A
劣後ローン格付	B B B +
発行登録債予備格付	A
国内 C P 格付	J - 1

■ 格付事由

- レゾナックグループの持株会社。近年、ノンコア事業の売却や半導体材料へのリソース集中によって、機能性化学メーカーとしてのポジションを強めている。中核の半導体材料では特に後工程向けで市場シェアの高い製品を多数有し、世界的な半導体メーカーを主要ユーザーとする。また、ハードディスクメディアでは外販トップのポジションにある。なお、石油化学の事業主体であるクラサスケミカルは 26 年 9 月に株式を上場、同 10 月のパーシャル・スピノフにより連結対象外となる予定である。グループの一体性は強く、格付にはグループ全体の信用力を反映させている。
- ポートフォリオ変革が進展し、収益力が向上してきている。半導体・電子材料は、AI 関連を中心とする先端半導体向けの関連材料やハードディスクメディアの需要が増加しており、高い競争力と市場プレゼンスが収益拡大につながっている。短期的な需要変動には留意を要するものの、主要ユーザーとは強固な取引関係が構築されており、中長期的な成長力は強い。懸案であった黒鉛電極も構造改革で採算が改善している。グループ全体として当面、高い収益性を維持しながら利益水準を高めていけると想定される。一方、財務構成も改善が進んできており、当面、こうした状況が続く蓋然性が高い。以上を踏まえ、格付の見通しをポジティブとした。今後、好業績の持続性や財務基盤強化の一段の進捗が確認できれば、格上げを行う。
- 26/12 期会社計画（クラサスケミカルは非継続事業扱い）ではコア営業利益 1,960 億円（前期比 87.7%増）と、旧昭和電工時の営業最高益（日本基準、18/12 期 1,800 億円）を上回る水準を予想する。自動車成形部材事業の譲渡や中東情勢の悪化による原価上昇などはマイナス要因となるが、半導体・電子材料の需要が大幅に増加することが業績を押し上げる。不採算が続く黒鉛電極も、固定費削減などで赤字が縮小することがプラス要因となる。親会社の所有者に帰属する当期利益も 1,125 億円（前期比 3.9 倍）と大幅増益の見通し。好業績を受け、同期の EBITDA マージンは当社が設定する目標水準（20%）を超えると想定される。
- ネット DER（劣後ローンの資本性考慮）は 20/12 期末で 1.8 倍となっていたが、順調に改善が進み、26/12 期第 2 四半期末では 0.65 倍に低下した。利益蓄積に加え、好業績を背景に新株予約権付社債の転換が進んだことなどが背景となっている。26/12 期第 2 四半期末で親会社の所有者に帰属する持分（劣後ローンの資本性は考慮せず）は 7,000 億円台後半となっており、業績変動などに対し相応のリスク耐久力がある。当面、半導体・電子材料を中心とした成長投資が続くと想定されるが、キャッシュフロー創出力が向上しており、財務規律順守の姿勢にも変化はない。

（担当）殿村 成信・藤田 剛志

■格付対象

発行体：株式会社レゾナック・ホールディングス

【見通し変更】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	A	ポジティブ

【据置】

対象	発行額	発行日	償還期日	利率	格付
昭和電工第 29 回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	70 億円	2016 年 12 月 1 日	2026 年 12 月 1 日	0.500%	A
昭和電工第 31 回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	100 億円	2019 年 4 月 23 日	2029 年 4 月 23 日	0.430%	A
昭和電工第 33 回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	200 億円	2021 年 12 月 2 日	2026 年 12 月 2 日	0.200%	A
昭和電工第 34 回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	50 億円	2021 年 12 月 2 日	2028 年 12 月 1 日	0.300%	A
昭和電工第 35 回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	450 億円	2021 年 12 月 2 日	2031 年 12 月 2 日	0.550%	A
昭和電工第 37 回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	450 億円	2022 年 4 月 28 日	2027 年 4 月 28 日	0.510%	A
昭和電工第 38 回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	80 億円	2022 年 4 月 28 日	2032 年 4 月 28 日	0.740%	A
昭和電工マテリアルズ第 10 回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	200 億円	2017 年 12 月 5 日	2027 年 12 月 3 日	0.375%	A
第 1 回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	90 億円	2023 年 6 月 15 日	2028 年 6 月 15 日	0.695%	A
第 2 回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	86 億円	2023 年 6 月 15 日	2030 年 6 月 14 日	1.100%	A
第 3 回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	124 億円	2023 年 6 月 15 日	2033 年 6 月 15 日	1.500%	A
第 4 回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	250 億円	2024 年 12 月 10 日	2029 年 12 月 10 日	1.409%	A
第 5 回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	100 億円	2025 年 11 月 28 日	2030 年 11 月 28 日	2.033%	A

対象	借入額	実行日	弁済期日	利率	格付
劣後特約付シンジケートローン	1,375 億円	2024 年 7 月 31 日	2059 年 7 月 31 日	(注)	BBB+

(注) 実行日から 2029 年 7 月の利払日までは基準金利に当初スプレッドを加算した値。2029 年 7 月の利払日以降は基準金利に当初スプレッドと 1.0%を加算した値

対象	発行予定額	発行予定期間	予備格付
発行登録債	1,500 億円	2026 年 4 月 30 日から 2 年間	A

対象	発行限度額	格付
コマーシャルペーパー	700 億円	J-1

格付提供方針等に基づくその他開示事項

1. 信用格付を付与した年月日：2026年9月15日
2. 信用格付の付与について代表して責任を有する者：水川 雅義
主任格付アナリスト：殿村 成信
3. 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」（2014年1月6日）として掲載している。
4. 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」（2024年10月1日）、「化学」（2022年6月15日）、「持株会社の格付方法」（2025年4月2日）、「ハイブリッド証券の格付について」（2012年9月10日）として掲載している。
5. 格付関係者：
（発行体・債務者等） 株式会社レブナック・ホールディングス
6. 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。
なお、本件劣後ローンにつき、約定により許容される利息の支払停止が生じた場合、当該支払停止は「債務不履行」に当たらないが、JCRでは債務不履行の場合と同じ「D」記号を付与することとしている。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
7. 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
 - ・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表
 - ・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
8. 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
9. 格付関係者による関与：
本件信用格付の付与にかかる手続には格付関係者が関与した。
10. JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であると問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であると問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等することは禁じられています。

予備格付：予備格付とは、格付対象の重要な発行条件が確定していない段階で予備的な評価として付与する格付です。発行条件が確定した場合には当該条件を確認し改めて格付を付与しますが、発行条件の内容等によっては、当該格付の水準は予備格付の水準と異なることがあります。

■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO（Nationally Recognized Statistical Rating Organization）の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/en/>）に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

株式会社 **日本格付研究所**

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官（格付）第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル